

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201322		
法人名	(有)アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水梅ヶ谷の家 1号館		
所在地	静岡県清水区梅ヶ谷227番地の1		
自己評価作成日	平成28年8月17日	評価結果市町村受理日	平成28年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2274201322-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2274201322-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清水区高部地区は、今後高齢化が急速に進む地域とされており、近年新しい施設が次々と建設されていますが、清水梅ヶ谷の家の開設は平成17年3月で、10年以上にわたり地域で実績を積んできました。  
入居者層の特徴は生活保護受給者が大半を占めているということで、地域でのセーフティネットの受け皿として行政と連携しながら、利用者および家族の抱えている生活課題の解決を援助し、社会福祉に貢献できるよう、日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「こうするといいいんじゃないか」ということは前向きに取り入れる管理者で、例えば外部研修の案内は事務所ではなくユニット入口にあります。職員からも「管理者が〇〇してくれて～」と端々にこぼれることから、双方の信頼による実現率の高さが窺えます。また絵手紙の先生のボランティア訪問と、折り紙、パソコンを使った印刷物の得意な職員の尽力を以て、リビングは目にも楽しい和む空間となり、日頃の安寧が伝わります。職員の中には地域で組長をしたり、S型デイサービスでボランティアスタッフとして活躍する人もいて外部者からは地域密着型職員としての責務を私事でも果たし頼もしく映ります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループの理念である地域社会への貢献、ホームの理念である家族同様のつながりという理念を職員は共有して、日々の業務に取り組んでいる	事業所理念は、フルーツや野菜の鮮やかなイラストを囲みとした掲示で目を惹きます。職員からの「変えたい」との意見はなく、また特段啓発の取組みがないものの、「職員の仕事以外での関係の膨らみが理念の実現に反映している」と管理者は捉えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、お祭りや清掃、防災訓練等の地域の行事には、利用者と共に折に触れて参加している	「どんど焼き、子ども神輿、側溝清掃といった小さな関わりを確かなものとしよう」と努めています。建物のオーナーの畑の収穫物を駐車場でも無人販売していたり、開設から11年ということもあり、電話での入居相談もあります。	無人販売の袋詰めのかなかに事業所のボランティア募集を封入するなど、PRをさらに進めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護や認知症に関する相談が時々入ってくるので、日々の業務で培ったノウハウを活用して、問題の解決に助力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市町村職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、利用者ご家族等に出席していただき、ホームでの取り組みと地域の福祉課題について意見交換を行っている	「運営推進会議を通じて地域の声に耳を傾けよう」という意識は、管理者が役割配分等を通して職員に働きかけています。民生委員、保護司、医師、地域包括支援センターと、外部の皆さんに自身の仕事について語ってもらうことで、職員にとっては大いに学ぶ場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当ホームの特徴として、生活保護受給者が大半を占めているという事情があり、地域のセーフティネットの受け皿として、行政と連携して地域福祉の実現に協力している	市役所には運営推進会議の日程計画を予め提出し、議事録は都度窓口には届けています。地域包括支援センター職員はほぼ毎回運営推進会議に出席くださり、1ヶ月に1度介護相談員の訪問もあり、利用者も新鮮な関係を楽しんでいる様子です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	かなり以前から身体拘束0宣言をしており、拘束を一切しないケアを実践している 身体拘束にあたる行為については、職員は社内研修を通じて学んでいる	玄関、ユニットは日中オープンで、現在拘束手続きが必要な症状をもつ利用者もいません。帰宅願望には会話をもち、家族に電話での協力を得てと順を追って気持ちに添うようにし、またセンサーについては家族にも同意を得て導入しています。	「食事中、車いすのままでもいいか」「フットレストに足を乗せたままでもいいか」あらためて職員間で話し合うことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は社内研修において、定期的に虐待にあたる行為を学習しており、利用者の尊厳が守られる適切なケアが提供されるよう、法人全体で努力している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者中には、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方が常に何人かいて、権利擁護機関との関わりの中から実務を通して、それらの制度について学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書や契約書の内容について、不安や疑問を残すことなく、しっかりと納得してもらえるよう、十分な説明に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者や家族から要望を言いやすい環境づくりに努めており、要望があれば可能な限り運営に反映させるようにしている	17名中14名が家族と疎遠、または近年縁が再びつながったという状況にあり、運営推進会議への参加をお願いしたり、家族会を開催するのが困難です。それでも、家族のなかには「フラダンスのボランティアを紹介しますよ」と事業所に協力くださる人もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議の際に、職員の意見や提案を汲み上げ、場合によっては地区館長会議や法人本部で検討するようにしている	「こうするといいいんじゃないか」ということは前向きに取り入れる管理者で、例えば外部研修の案内は事務所ではなくユニット入口にあります。職員からも「管理者が〇〇してくれて～」と端々にこぼれることから、双方の信頼による実現率の高さが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価については、事業への貢献が給与や昇進に反映されやすいシステムに体系づけられている 労働環境については、休暇等について職員の希望が最大限反映されるよう、管理業務の中で心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上を図るため、法人内にはいくつかの研修課程があり、職員はそれを受けることが義務づけられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者の入院や移動、新規受け入れの際の情報収集等の場を通して他事業所と関わりを持ち、事業所間の相互理解の機会としている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意思を入居前の面接で事前に大まかに聞き取った上で、入居後も本人とのコミュニケーションに配慮して要望を把握し、本人が安心できるケアの提供に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談で、家族の要望を聞き取り、また家族の抱える生活課題を支援していく中で、家族との信頼関係を構築するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族および関係者からの相談を受けの中で、ホームが出来ること出来ないことを明確にし、当事者にとって最適のサービスを選択できるよう、公平な立場からアドバイスをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること、例えば洗濯物たたみやテーブル拭き等を日常的に担当してもらい、ホームの中で役割を持つことで、生活の主体者となってもらえるよう、努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来てくれた時、あるいは毎月のホーム便りで本人の様子を伝え、家族に出来る協力をその都度お願いすることで、家族が本人をホームと共に支援していくという関係が作れるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人が面会に来やすいようなホームの環境づくりに勤めている 通院の際、友人に会いやすい日に受診できるように、曜日の調整を行っている	ヒューマンリレーションの上手な職員が多くいて、面会での家族を歓待することができています。飲酒、煙草を受け入れていますが予算的に厳しい人もいるため、嗜好品で続けているのは、コーラ、干切りキャベツがあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの相性の良し悪しを判断し、関わり方、距離のおき方を工夫して、有機的で良好な関係性が継続するよう努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり他施設へ移られた場合でも、折を見て面会に訪れ、関係性が継続するよう、心掛けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どういう希望を持っているのかを把握するには、まず本人の話を傾聴するようにしている 自分の意思を伝えられない人については、表情や行動から気持ちを把握するよう努めている	食事中「私が代わりにやってもいいですか」と丁寧に確認したり、朗らかに「いつもありがとうね」と利用者に感謝を伝える職員に、利用者の表情や佇まいには安心感が垣間見え、関係性のなから想いや意向を掴んでいることを視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人の生活歴について出来る限りの情報収集をしている 入居してからも本人や家族との話の中から、その人の歩んできた道の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を日々観察し、出来ること出来ないこと、生活の嗜好、排泄のリズム、健康状態等の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、現場スタッフと話し合い、医療関係者や行政の意見も受けながら、可能な限りの確な計画作成とモニタリングができるよう、努力している	管理者が介護支援専門員を兼務して介護計画書を作成しています。そのための情報把握として、職員のカンファレンス(1階は聞き取りのみ)と計画作成担当者による集約があります。職員の3分の1が計画作成ができるとする研修を受講済で標準化が進んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調の異状があること、日々のケアで気が付いたこと等は個別記録や申し送りノートに記入することを通して、全てのフロアスタッフが情報共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員側の都合でサービスのあり方を決めるのではなく、利用者のニーズを優先して、その方に合ったサービスが提供できるよう、心掛けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の自治会に加入しており、地域の催し物、お祭り等、参加できる時には参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の内科医と提携して、かかりつけ医になってもらっており、本人・家族にもそこで診てもらうことに同意をもらっている 往診や電話でのアドバイスにも応じてくれ、本人の健康状態を包括的に把握してくれている	大半が協力医に変更しており、月1回の定期受診には職員が付添っています。何かあれば往診もおこなってくださる医師と、本部から週1回来訪の看護師の存在で、具体的な判断材を仰げており、職員は助けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、浜松の本部から看護師が来てくれていて、各利用者の状態を診てくれる 介護職の判断では難しいことは、オンコールにて相談し、適切なアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の医療的情報のみならず、日常生活の様子まで、病院にすぐに情報を提供している 入院後は、病院側と随時連絡を取り、病状の変化や退院時期等を把握するようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が終末期に向かっている時は、特に頻繁に家族に連絡し、その都度意向を確認し、ホームでできること、医療の手が必要なこと等を理解してもらいながら、支援の方針を決めている	看取りについてはエンゼルケアも含み総合的に所内研修をおこなっています。前回の外部評価から今日まで4例の看取りがあり、短い期間に職員の苦勞が続きましたが、「私が責任をもって最期まで看ます」と言ってくれる協力医の力添えを以て無事見送ることができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故時の対応についてはマニュアルが整っており、それに沿って対応するよう、指導されている 応急手当の訓練は、防災訓練等の機会に行われている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っており、全職員が参加している 近隣の方にも参加をお願いしているが、現時点では職員のみで行っている	夜間想定、家事や地震を設定して、通報・水消火器の訓練をおこなっています。2回のうち1度は消防署の立ち合いを求め、防煙対策や「室内の場合の一時避難ではテレビの傍は避ける」といった実践的なアドバイスを得ています。	備蓄整備及び管理が滞っていますので、一度見直すことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の失見当な言動に対しても、頭から否定せず、その方の誇りを損ねないよう配慮している 職員が居室やトイレに入る際は、一声かけて了解を得るようにしている	1階では呼称を本人本位でおこない、「～ちゃん」と呼ぶことが嬉しい人にはそのようにしています。2階はチームケアを重視して職員間の情報共有を大切にしており、利用者の残存機能を活かし意欲を引き出す様子が見てとれます。	食事に使うエプロンの紐がとれてしまった代用に洗濯バサミを使っていますが、「職員はどのように考えるのか」改めて尊厳について振り返りの場があることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を表出しやすいようなフロアの雰囲気作りに努めており、また本人の希望を最大限に尊重することで、自己決定が促されるような環境づくりを目指している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのスケジュールは大体決まっているが、それに捉われることなく、柔軟に対応するよう努めている 外出等については、マンパワー等の面で限りはあるが、なるべく希望に沿うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気に入った服を着てもらい、希望があれば、必要なものを購入することについて支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事についてのアンケートを取ったり、日常の中で随時希望を聞いたりして、メニューに反映している 材料の下ごしらえや味見等、できる場合には利用者にも手伝ってもらったりしている	朝食以外は業者からカロリーや作り方とともに食材が届き、職員が調理しています。誤嚥の心配があればミキサー食としながらも、自力で口に運ぶことを大切にしながら見守る職員の姿があります。テーブル拭きを役割と心得、職員の手助けを歓迎している人もいます。	味見による検食簿記入はありますが、テーブルを囲んでの検食がないため、不足はないか見直しを期待します(訪問時の職員は着席して同じメニューを囲まなくてもリレーションはできていました)。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量については日常的に観察しており、必要な時には細かく記録をしている 食事が取れない時には、栄養補助食品で対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを自力でできる方には、食後に声掛けをして自分でやってもらっている 自分でできない方は、職員の介助で口腔ケアを実施している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、それぞれの方の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている 自力でできる可能性のある方には自立を促し、結果として一人のできるようになった方もいる	入居したての頃はフェイスシートにしたがってませんが、生活リズムが整うなかで例えば紙パンツからリハパンへの移行がおこなわれています。入院では状態が下がるケースが増えますが、トイレに行くことから始めてオムツ外しもこれまで成功しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食物を、努めて摂ってもらっている 朝の体操の際には、腸の運動を促進するような運動をしている 水分摂取にも気を遣っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂に入りたい時に入る、という訳にはいかず、時間帯は決まっているが、お湯に浸かる時間は、利用者の希望に任せている(健康状態に配慮しながら)	仲の良い利用者同士で入ることもあるというタイル貼りの大きな浴槽は経年劣化を感じさせず、清潔です。「入りたくない」人には無理強いせず、清拭に切り替えるなどして工夫しています。また浴剤で香りを楽しんでもらう日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、物音、光等、安眠できる環境づくりを心掛けており、一人ひとりが気持ちよく眠れるようにしている 寝具も定期的に日干しにする等して、清潔な状態が保てるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の説明書をよく読み、その目的や用法、副作用について理解するよう心掛けている 薬によっては、医師の承諾を前提として、現場での調整を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分でできることは可能な限りやってもらい、その人の力を活かすようにしている 嗜好品については、本人の希望を聞きながら、可能な範囲で対応している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、外食等、希望があれば、職員の付添で出掛けている 本人の希望があっても、家族の同意が得られないこともある	散歩は天候と本人の状態がよければ希望に応じていますが、月1回の通院介助では付屬的にちょっとした買い食いや希望する立ち寄りをおこなうことができます。職員企画で2~3ヶ月に1度、花見や七夕のお出かけもあり、リビングの壁には笑顔の思い出写真が飾られていました。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム側で預かっていて、本人の希望で使ってもらようにしている 紛失のリスクを理解でき、それでも自分でお金を持っていたいという希望が強い方には、自分で所持してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、自分で自由に電話を掛けていて、そうでない方はホームの電話を使ってもらっている 利用者からの希望があれば、遠方の家族等に便りを出すことの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の空調、カーテンや窓の開け閉め等については、快適な空間が維持されるよう、職員が常に配慮を行っている 壁飾りや花で、室内が殺風景にならないよう、演出している	温・湿度計を設置、また入院中の居室は換気するなど居心地のよさに配慮し、特に2階は光の差し込みの多い分温度変化に留意しており、細目に室温確認をおこなっています。また壁面に並ぶ手の込んだ折り紙作品や、絵手紙から安寧が伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で過ごすのを好まれる方もいれば、気の合った方とリビングでお喋りしている方もいて、それぞれの時間の送り方をしてもらっている 食卓の席決めは、利用者の人間関係等を考慮しながら、職員が工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人と家族も希望する家具をおいってもらっている 本人の身体能力等を考慮して、職員が配置を変えたりすることもある	鏡とブラシ、テレビ、時計、CDデッキの日用品のほか、大きな仏壇を持ち込む部屋もあります。仏壇のなかには伴侶の大きな遺影を置き、水の入れ替えを本人が忘れたときは職員がフォローしています。どの居室にもアクティビティでつくった折り紙作品が彩を添えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアや廊下、浴室、トイレには手すりが設置されていて、安全に配慮している 失見当のある方にも居室、トイレ、浴室の場所がわかりやすいように、表示をしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201322		
法人名	(有)アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水梅ヶ谷の家 2号館		
所在地	静岡市清水区梅ヶ谷227番地の1		
自己評価作成日	平成28年8月17日	評価結果市町村受理日	平成28年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2274201322-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2274201322-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清水区高部地区は、今後高齢化が急速に進む地域とされており、近年新しい施設が次々と建設されていますが、清水梅ヶ谷の家の開設は平成17年3月で、10年以上にわたり地域で実績を積んできました。  
入居者層の特徴は生活保護受給者が大半を占めているということで、地域でのセーフティネットの受け皿として行政と連携しながら、利用者および家族の抱えている生活課題の解決を援助し、社会福祉の貢献できるよう、日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「こうするといいいんじゃないか」ということは前向きに取り入れる管理者で、例えば外部研修の案内は事務所ではなくユニット入口にあります。職員からも「管理者が〇〇してくれて～」と端々にこぼれることから、双方の信頼による実現率の高さが窺えます。また絵手紙の先生のボランティア訪問と、折り紙、パソコンを使った印刷物の得意な職員の尽力を以て、リビングは目にも楽しい和む空間となり、日頃の安寧が伝わります。職員の中には地域で組長をしたり、S型デイサービスでボランティアスタッフとして活躍する人もいて外部者からは地域密着型職員としての責務を私事でも果たし頼もしく映ります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループの理念である地域社会への貢献、ホームの理念である家族同様のつながりという理念を職員は共有して、日々の業務に取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、お祭りや清掃、防災訓練等の地域の行事には、利用者と共に折に触れて参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護や認知症に関する相談が時々入ってくるので、日々の業務で培ったノウハウを活用して、問題の解決に助力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市町村職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、利用者ご家族等に出席していただき、ホームでの取り組みと地域の福祉課題について意見交換を行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当ホームの特徴として、生活保護受給者が大半を占めているという事情があり、地域のセーフティネットの受け皿として、行政と連携して地域福祉の実現に協力している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	かなり以前から身体拘束0宣言をしており、拘束を一切しないケアを実践している 身体拘束にあたる行為については、職員は社内研修を通じて学んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は社内研修において、定期的に虐待にあたる行為を学習しており、利用者の尊厳が守られる適切なケアが提供されるよう、法人全体で努力している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者中には、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方が常に何人かいて、権利擁護機関との関わりの中から実務を通して、それらの制度について学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書や契約書の内容について、不安や疑問を残すことなく、しっかりと納得してもらえるよう、十分な説明に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者や家族から要望を言いやすい環境づくりに努めており、要望があれば可能な限り運営に反映させるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議の際に、職員の意見や提案を汲み上げ、場合によっては地区館長会議や法人本部で検討するようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価については、事業への貢献が給与や昇進に反映されやすいシステムに体系づけられている 労働環境については、休暇等について職員の希望が最大限反映されるよう、管理業務の中で心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上を図るため、法人内にはいくつかの研修課程があり、職員はそれを受けることが義務づけられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者の入院や移動、新規受け入れの際の情報収集等の場を通して他事業所と関わりを持ち、事業所間の相互理解の機会としている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメント情報、サマリー等をもとにして、本人との面接でコミュニケーションをとり、本人の思いや状態を把握して、サービス提供を始めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の相談を受ける中で、本人に対する思いや、ホームでどのような生活を送ってほしいか意向を聞き、できるだけ要望に沿ったサービスを行えるよう、努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設を見学してもらい、当ホームのサービスの説明をして、ホームが本人と家族のニーズに最適なサービスを提供できるのかどうかを、十分に検討してもらえるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には親子のように支えあったり、人生の先輩である利用者様の知恵を借りたりしている お互いに何でも言い合える関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が協力してくれる範囲内で、通院や外出等をお願いし、利用者に関わってもらえる機会を作るようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人の面会時には、ゆっくりと過ごすことができるよう雰囲気づくりを心掛け、また来ていただけるよう努力している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、テーブルの配置等に注意し、喧嘩したり孤立したりしないよう配慮している 利用者同士の会話がつながるよう、職員が時には間に入って雰囲気づくりをしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等に移った方には、転所、転院先に面会に行ったり、家族にその後の様子を聞いたりして、関係性の継続に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中での会話で、その方の思いを把握するようにしている 意思表示が困難な方については、表情や反応からその方の思いを感じるようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から色々と話を聞き、ホームでのサービス提供のヒントとなり得る生活歴についての情報を収集する努力をしている 収集した本人についての情報は、フェイスシート等を通して、フロアスタッフで共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、それぞれの利用者の様子を観察し、できることできないこと、わかることわからないことの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の定期カンファレンス、必要に応じての臨時カンファレンスを通して、各職員の考え方を聞いている 家族や医療機関、行政とは電話連絡にて意見交換を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子は、介護詳細記録や申し送りノートに記入、各スタッフが閲覧し情報共有をしている それをもとにカンファレンスを行い、今後のケアの見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者の現在の状態に合わせて、ケアを見直している 本人や家族の状況の変化に応じて、ホームが行う支援は柔軟に対応している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括職員、民生委員等から地域資源についての情報をいただき、利用者の支援に役立っている また月1回、地域ボランティアの方による絵手紙教室を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、主治医に利用者の近況をしっかりと報告し、状態を把握してもらっている 職員は医師の診断内容を持ち帰り、ホームで適切な対応がされるよう、努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度、本部より訪問看護が来所し、療養についての相談に乗ってくれる 健康状態の悪化等があった時は、24時間電話で助言を得ることができる体制になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、利用者の情報を的確に伝えている 入院中は定期的に職員が面会し、本人の状態を観察するとともに、病院スタッフから経過を聞くようにしている 病院でのカンファレンスにも参加している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく利用者については、家族やチームで十分に話し合いを行い、本人にとって一番よい選択がなされていけるよう、支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル、対応資料があり、何があっても速やかに対応できるよう、備えている 救急関連の研修は随時受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っており、消火器の使い方等の訓練を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人およびホームの理念に基づき、日々の関わりの中で職員は言動に注意し、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、利用者が希望を表したり、自己決定ができるように、意図的な声掛けを行っている 自分で決めることができない人には、表情や仕草から本人の意図を読み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的には決まっているが、利用者の希望がある時は出来る限りそれを優先し、本人が嫌がる時には無理強いせず、本人のペースに合わせた支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等、着る服を選びたい方に対しては、その意思を尊重するようにしている おしゃれにこだわりのない方についても、身だしなみが整うよう、職員が気を付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	随時、利用者の好みのメニューを聞き、普段の食事に取り入れるようにしている 特に片付けについては、できる方には自分で行ってもらうようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の残量をチェックしたり、本人の話を聞いたりして、好みやカロリーを考え、工夫している 水分摂取量については、個々の利用者の事情に応じて、対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔の状態や、うがいや歯磨きの能力に応じた口腔ケアを実施しており、口の中の清潔が保たれるようにしている		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らって声を掛けトイレ誘導をし、リズムのある良好な排泄習慣が整うよう努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便状況のチェックを行っている 自力での排便が難しい方については、水分補給や運動、食事(食物繊維の多いもの、ヨーグルト等)に気をつけて自然排便を促している それでも便秘気味の時は薬で調整する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりにタイミングを計って入浴の声掛けをし、それぞれの方の生活のリズムに合った入浴の支援ができるよう、努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は、一人ひとりの睡眠パターンにあったリズムで安心して眠れるよう、支援している 日中でも、その時々体調に合わせて休んでいただける配慮をしている 安眠できない日が長期に及ぶ場合は、主治医に相談、指示をもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者ごとに担当職員を決め、その職員を中心に薬の管理を行っている 個人別に薬の内容の一覧表を、各自のファイルに綴じてあり、目的や薬がなくなる日の管理を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、負担にならない程度に食事時の片付け、掃除、洗濯物たたみ等の家事を手伝ってもらったり、歌やレクリエーション、外出等の楽しみごとを持つよう、支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候が穏やかな日は、戸外に出て散歩をしたり、ドライブや買い物に出掛けるなど、外出の支援をしている 他のユニットに行きそこの利用者に関わって、ちょっとした気分転換を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭所持はトラブルの原因になるため、ホームで管理し、買い物の要望がある時に本人に渡し、職員の見守りまたは介助のもとで使っていただくようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らの意思と力で電話をかけることはほとんどないが、本人が希望する場合や必要時は、職員の介助で家族等に連絡を取っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りや小物を、利用者と職員が協同で製作し飾っている 音楽や照明は、利用者の希望確認しながら調整している 温度・湿度計を設置し、室内環境を管理している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中で、自由にどの場所でも過ごすことができるようテーブルとソファの位置を考え、空間が広く取れるようにすることで、利用者が有効に空間を使えるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛着のある小物やタンス、仏壇等持込は自由で、馴染みの物に囲まれて過ごせるように配慮している ご家族の写真を飾っている方も多い		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー設計になっており、フロア内は手すりがつながっている ホーム備付の車椅子、シルバーカーが用意しており、必要に応じて使ってもらっている		